学校番号	1015

令和２年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ａ	単位数	２	年次	２
使用教科書	高等学校 標準古典Ａ 物語選（第一学習社）						
副教材等	新総合　図説国語　改定新版（東京書籍）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

＊　１年次に引き続き、有名な古典作品に親しみます。
＊　予習として必ず本文を読んでおきましょう。授業の後には内容を振り返って復習してください。
＊　登場人物の心情等を正しく理解するために、古典の基礎的な語彙力や文法の知識を身につけます。
＊　ノートやワークシート等は丁寧に整理して記入・作成しましょう。
＊　提出物の期限は守り、定期考査・小テストは計画的に学習をして取り組んでください。

２　学習の到達目標

古典としての古文と漢文、古典に関連する文章を読むことによって、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a：関心・意欲・態度	b：読む能力	c：知識・理解
観点の趣旨	古典を進んで学習し、伝統的な言語文化について理解を深めようとしている。	古典作品から思想や感情を読み取る。人間・社会・自然などについて考察し、古典特有の表現を鑑賞する態度を身に付けている。	古典を読むために必要な語句の意味・用法・文の構造・文法・音声・表記等を理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート・ワークシート等）	行動の観察 指名音読 記述の確認 （ノート・ワークシート等） 発問評価	行動の観察 記述の確認 （ノート・ワークシート等） 定期考査・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

期	単元名	学習内容	評価の観点 a	評価の観点 b	評価の観点 c	単元(題材)の評価基準	評価方法
前	随筆	『徒然草』 「公世の二位のせうとに」 「相模守時頼の母は」 文法等…歴史的仮名遣い 文語動詞の基礎	○	○	◎	a 随筆を読み、古文に親しんでいる。 b 随筆を読んで作者の思想や感情を読み取り、人間・社会などについて考察している。 b 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉えている。 c 古文を読むことに役立つ、基礎的な文語のきまりを身につけている。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査

期	単元名	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c		
前	説話	『古今著聞集』 「小式部内侍が大江山の歌の事」 文法等…和歌の修辞	○	◎	○	a 短い説話を読んで古文に親しみを持ち、内容を理解している。 b 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み深め、話のおもしろさを捉えている。 c 有名な和歌を含む説話を読み、和歌や和歌説話の特質、和歌特有の修辞を理解している。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査
	物語㈡	『大鏡』 「道長の豪胆」 文法等…文語の形容詞 文語の形容動詞	○	◎	○	a 戯曲的な構成を理解し、内容を的確に捉えている。 b 歴史物語を読んで、登場人物の行動や心情を読み深めている。 c 敬語など、古文読解の基礎知識を確認し理解している。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査
	故事・寓話	「助長」 「嬰逆鱗」 文法等…漢文訓読の基礎	○	○	◎	a 漢文に親しみを持ち、話の内容を理解している。 b 故事や寓話にこめられた古代の中国の人のものの見方・考え方を捉えている。 c 漢文訓読のきまりを身につけている。 c 本文を訓点に従って正しく読み、書き下し文に改めることができる。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査
後	漢詩の鑑賞	近体の詩 「鹿柴」 「絶句」 「峨眉山月歌」 「春夜」 「臨洞庭」 「遊山西村」 文法等…漢詩のきまり	○	◎	○	a 漢詩の表現の美しさに気づいている。 b 漢詩のさまざまな描写に接し、そこにうたわれているものを的確に捉えている。 b 詩に表現された作者の心情を、そのときの作者の境遇と合わせて理解できている。 c 漢詩のきまり(近体詩の詩形・押韻・構成・対句など)について理解している。 c 本文を訓点に従って正しく読むことができる。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査
	物語㈡	『平家物語』 「能登殿の最期」 文法等…音便	○	○	◎	a 和漢混交の流麗な文体やそのリズム等、表現上の特色を理解している。 b 軍記物語の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み深めている。 c 音便や挿入句、中世の敬語や語彙に慣れ親しみ、その特色について理解している。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査

期	単元名	学習内容	評価の観点			単元(題材)の評価基準	評価方法
			a	b	c		
後	日記	『紫式部日記』 「日本紀の御局」 文法等…敬語	○	○	◎	a 漢字や漢学の素養に関する記述から、日本の文化と中国の文化との関係について理解している。 b 日記を読んで、作者の思想や感情を読み取り、人間や社会などについて考察している。 b 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉えている。 c 丁寧語「侍り」について理解している。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査
	物語㈢	『源氏物語』 「光る君誕生」 「若紫」 文法等…敬語 和歌の修辞	○	◎	○	a 和歌を含む物語を読んで、物語における和歌の役割を理解している。 b 長編物語を読んで、話のおもしろさを捉え、話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み深めている。 c 敬語や文法の知識を確認し、解釈にいかしている。	a:授業態度 b:発問評価 b:指名音読 a:学習課題の提出 a:ノートの提出 c:小テスト b, c:定期考査

※　表中の観点について　　a：関心・意欲・態度　　b：読む能力　　c：知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重み付けを行う観点について◎を付けている。